

非流行期におけるインフルエンザの検出状況

2015年 - 2016年のインフルエンザの報告患者数は、2016年の年明けから増加し、第6週(2月8日～14日：定点当たり49.13)をピークに減少に転じました。以後、第18週(5月2日～8日：0.43)に定点当たり報告数が1.00を下回り、流行を終えました。

4月から新たに始まった病原体サーベイランス¹⁾では、流行期の間84検体が採取され、79検体からAH1pdm09が15件、A香港型(AH3)が4件、B型が60件検出されました²⁾。今回は、非流行期(2016年5月～10月)におけるインフルエンザウイルスの検出状況について報告します。

5月～10月にインフルエンザ指定提出機関で採取された検体は、39件で、36件からインフルエンザウイルスが検出されました。型別では、A香港型(AH3)が19件、B型が11件(ビクトリア系統3件、山形系統8件)、AH1pdm09が6件で、検出数が最も多かったA香港型(AH3)は、20歳未満11人、20歳以上8人から検出されました(下表)。また、B型は全て5月に採取された検体、A香港型(AH3)は5月の1件を除き18件は7月以降の検体、AH1pdm09は5月、8月及び10月に採取された検体からの検出でした。

表 年齢型別インフルエンザウイルスの検出数(衛生研究所検査分)

採取月	ウイルス型	年齢階級								計
		0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
5月～10月	AH1pdm09	1	1	1	1	1	1			6
	A香港型(AH3)	6	5	1	2	3	2			19
	B型ビクトリア系統	1		2						3
	B型山形系統	3	2	1	1			1		8

今週第44週(10月31日～11月6日)には定点当たり0.65となり、例年より早く流行期に入ることが予想されます。報告患者数が定点当たり1.00を超えた時点で、インフルエンザ指定提出機関の先生方におかれましては、各週1検体の採取をお願いします。

1) SIASR 病原体サーベイランスについて H28.5.11

<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/documents/siasr-topix-201604.pdf>

2) SIASR Topics Vol.01 インフルエンザウイルスの検出状況について H28.5.25

<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/documents/siasr-topix-201605.pdf>